

Alibaba Cloud

#有宿主机

ユーザーガイド

Document Version20191121

目次

1 DDH 上のリソースの表示.....	1
2 手動更新.....	2
3 自動更新.....	3
4 DDH 間の ECS の移行.....	5

1 DDH 上のリソースの表示

Dedicated Host (DDH) 上のリソースは、ECS コンソールで管理できます。

DDH の利用可能なリソースの詳細については、「[DDH の作成](#)」をご参照ください。

1. [ECS コンソール](#) にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウで、**[DDH]** をクリックします。
3. リージョンを選択します。
4. ホストリストに[vCPU 使用量/合計]、[メモリ使用量/合計]、[ローカルディスク使用量/合計]が表示されます。



注：

- ・ ホストタイプ別の全リソースについては、「[Dedicated Host タイプ](#)」をご参照ください。
 - ・ **SSD DDH** 以外の[ローカルストレージ使用量/合計]には、「**0/0**」と表示されます。
5. **DDH** を選択すると、**[DDH 詳細]** ウィンドウに詳細が表示されます。

特定の **DDH** に **ECS** インスタンスが作成されている場合、インスタンスの詳細を表示するには、**[インスタンス]** ページに切り替えます。インスタンスリストのページに移動するには、「操作」列で**[管理]** をクリックします。

2 手動更新

サブスクリプション方式の **DDH** を作成した後は、有効期限が切れる前に手動で更新することができます。

一定期間内に更新されないと、**DDH** はシャットダウンし、自動的にリリースされます。詳細は、「[サブスクリプション](#)」をご参照ください。

1. [\[ECS コンソール\]](#) にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウで、**[DDH]** をクリックします。
3. リージョンを選択します。
4. **DDH** を選択し、表上部で"操作" > **[更新]** の順に選択します。
5. **[更新]** ページで、次の手順を実行します。
 - a) 更新期間を「**1 ヶ月**」または「**1 年**」のどちらかを選択します。
 - b) **[Dedicated Host サービス条件]** の内容を確認します。
 - c) **[注文の作成]** をクリックします。
6. プロンプトに従って支払いを完了すると、サービスは自動的に有効になります。

3 自動更新

サブスクリプション方式の **DDH** で自動更新機能を有効にすると、自動更新スケジュールに従って **DDH** が自動的に更新されます。これにより、**DDH** の予期せぬリリースを回避できます、

自動更新中の課金

自動更新機能が有効になっている場合、アカウントにバインドされたクレジットカードに対して、有効期限 (**T**) 当日に、サブスクリプション料金が課金されます。課金が失敗した場合は、課金が完了するまで、7日目 (**T + 6**) と15日目 (**T + 14**) に再試行されます。3回の課金がすべて失敗すると、**DDH** はシャットダウンします。

自動更新を有効にします。

自動更新を有効にするには、次のいずれかの方法を使用します。

作成時の有効化

DDH の作成時に自動更新機能を有効にすることができます。

この機能を有効にすると、サブスクリプション方式の **DDH** は自動的に更新されます。更新期間は購入サイクルによって決まります。

- ・ 年間サブスクリプション方式の **DDH** の場合、更新期間は **1** 年間です。
- ・ 月間サブスクリプション方式の **DDH** の場合、更新期間は **1** ヶ月です。
- ・ 週間サブスクリプション方式の **DDH** の場合、更新期間は **1** 週間です。

DDH 作成後の有効化

サブスクリプション方式の **DDH** を作成した後、**ECS** コンソールで自動更新機能を有効にすることができます。以下では、**DDH** 作成後に自動更新機能を有効にする方法を紹介합니다。

サブスクリプション方式の **DDH** は "期限切れ" ステータスでなければなりません。

自動更新機能を有効にするには、以下の手順に従います。

1. [**ECS コンソール**] にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウで、**[DDH]** をクリックします。
3. リージョンを選択します。
4. **1** つまたは複数のサブスクリプション方式の **DDH** を選択します。表の上部で、**[操作]** > **[自動更新設定]** の順に選択します。
5. ダイアログボックスで、**[自動更新]** スイッチをオンにします。更新期間を選択し、**[OK]** をクリックします。

自動更新の無効化

サブスクリプション方式の **DDH** を自動的に更新しない場合は、この機能を無効にすることができます。

自動更新機能を無効にするには、以下の手順に従います。

1. [ECS コンソール](#)にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウで、**[DDH]** をクリックします。
3. リージョンを選択します。
4. 1つまたは複数のサブスクリプション方式の **DDH** を選択します。表の上部で、**[操作]** > **[自動更新設定]** の順に選択します。
5. ダイアログボックスで、**[自動更新]** スイッチをオフにします。**[自動更新をしない]** スイッチをオンにするかどうかを決めることができます。このスイッチをオンにすると、有効期限が切れた後、**DDH** は更新されません。

4 DDH 間の ECS の移行

柔軟性に優れたデプロイメントを実現するためのビジネス要件を満たすために、同一のユーザーアカウントを使用して DDH 間で ECS インスタンスを移行することができます。

DDH 間で ECS インスタンスを移行する前に、次の点を確認してください。

- ・ 同じタイプの **Dedicated Host** が少なくとも 2 つあること。詳細は、「[DDH の作成](#)」をご参照ください。
- ・ 移行先の DDH に、ECS インスタンス用の十分なリソースがあること。詳細は、「[DDH 上のリソースの表示](#)」をご参照ください。
- ・ ECS インスタンスの課金方法が、移行先の DDH でも利用できること。

DDH 間で ECS インスタンスを移行する前に、次の点を考慮してください。

- ・ 移行元の DDH と移行先の DDH は、同一アカウントで、同じリージョンとゾーンに属し、同じ **Dedicated Host** タイプでなければなりません。ただし、ローカル SSD ディスクを使用する DDH 上の ECS インスタンスは移行できません。詳細は、「[Dedicated Host タイプ](#)」をご参照ください。
- ・ ECS インスタンスのステータスは、「停止済み」でなければなりません。



注：

移行する際、ECS インスタンスのステータスは、「停止済み」でなければなりません。ECS インスタンスを停止すると、ビジネス運用が中断される可能性があるため、慎重に行ってください。

- ・ ECS インスタンスの課金方法が、移行先の DDH でも利用できること。

サブスクリプション サブスクリプション方式の DDH では、サブスクリプション方式と従量課金方式の両方の ECS インスタンスを稼働できます。移行するサブスクリプション方式の ECS インスタンスは、移行先の DDH よりも有効期限が短くなくてはなりません。

1. [\[ECS コンソール\]](#) にログインします。
2. 左側のナビゲーションウィンドウで、[\[インスタンス\]](#) をクリックします。
3. リージョンを選択します。
4. オプション: インスタンスリストの右上隅にある設定アイコンをクリックし、ダイアログボックスで [\[Dedicated Host\]](#)、[\[OK\]](#) の順にクリックします。
表の "Dedicated Host" 列は、ECS インスタンスがどの DDH 上で動作しているか調べるのに役立ちます。

5. **ECS** インスタンスを見つけ、"操作" 列で [詳細]、> [停止] の順に選択し、インスタンスを停止します。
6. インスタンスが "操作" 列で "停止済み" ステータスになったら、[詳細] > [DDH デプロイの変更] をクリックします。
7. ダイアログボックスで **DDH** を選択し、[OK] をクリックします。

Dedicated Host 情報が更新されるまで、インスタンスリストを更新します。インスタンスは自動的に開始します。最終的に、インスタンスは "実行中" ステータスになります。